

未来は女のものである (1984)

IL FUTURO E DONNA
THE FUTURE IS WOMAN

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 イタリア／フランス／西ドイツ

色彩 Color

時間 100分

初公開日 1986/03/21

公開情報 ヘラルド・エース

【解説】

近未来感覚のディスコ（日本人らしき前衛舞踏家の“お飾り”がある）でアンナは一人のうら若い妊婦を野良猫のように拾い、自室へ連れ帰る。同棲相手のゴードンは初め彼女の存在を邪魔に思うが、アンナと彼女の間に生まれた愛に自分から飛び込んでいく形で、時には父娘のような関係を彼女マルビーナと築いていく。庭師の彼は郊外に巨木を移植する。アンナの仕事はマーケットの文化担当か何かで、ガルボやディートリッヒのオブジェを作ったりしている。ある日、感情のもつれから“出ていく”というマルビーナを彼らは郊外に“捨て”に向かうが、すぐに“拾い”に戻り、その後、行ったスタジアム・コンサートで起きた暴動で、ゴードンは群衆に踏み殺されてもマルビーナを守った。そして、臨月。マルビーナは海亀のように浜辺で出産した子をアンナに託し、行先は“貴女の頭の中”だと言い残して永遠に去っていく。彼女は赤軍派だった。M・フェレーリの、ちょうど「ひきしお」などの逆を行くような、風変わりな女性賛歌。寓話として全体に成功しているとは言い難いが、シグラとムーティの女の友情の醸成に深い洞察が込められ、感動的だ。

【クレジット】

監督	マルコ・フェレーリ	Marco Ferreri
脚本	マルコ・フェレーリ	Marco Ferreri
	ターチャ・マライーニ	
	ピエラ・デッリ・エスポスティ	Piera Degli Esposti
撮影	トニーノ・デリ・コリ	Tonino Delli Colli
音楽	カルロ・サヴィーナ	Carlo Savina
出演	オルネラ・ムーティ	Ornella Muti
	ハンナ・シグラ	Hanna Schygulla
	ニエルス・P・アレストラップ	